

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 144

2020/03/30/Tue

新年度まであと2日

徳川吉宗、6年ごとに人口調査	1723年
未成年者飲酒禁止法公布	1922年
「地獄門」アカデミー最優秀外国映画賞	1955年
国立競技場完成	1958年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

離任式ができず、2019年度(令和元年度)修了を迎えます

明日3月31日をもってお別れとなります！

感謝とお礼と…思い出もいっぱいです！

—最後の感謝の言葉を「校長室だより」に託して…(上)—



I はじめに

私は、平成27年(2015年)4月1日に真岡東中学校に着任いたしました。以来、令和2年(2020年)3月31日までの5年間、教頭・校長として勤務いたしました。その間、市当局、市教育委員会のご指導をいただきながら、生徒・保護者及び地域の皆様の信頼と願いに応えるべく、その任に努めてまいりました。

今まで、任務を無事遂行できましたのも、保護者、地域の皆様からご支援ご協力をいただいたこと、教育に対して熱い情熱と意欲をもった教職員の支えがあったこと、そして、何より素直で明るい生徒たちに恵まれたからこそだと、心より感謝しております。

2017年からの3年間は、学校教育目標の具現化を目指し「生涯学習の視点に立ち、生きる力を身に付け、心豊かでたくましい生徒の育成のため、全職員の英知を結集した学校力と家庭や地域の教育力との協働により、知・徳・体の調和のとれた教育活動」を展開することを主眼に学校経営を行ってきました。その中でも「めざす学校像・生徒像・教職員像」をより具体化して、その実現のために微力ながら努力してきたつもりです。



2018年から、本校の生徒の実態を踏まえ「あい＝愛・合い・A I」をキーワードとするスローガンを設定し、「学力向上を目指す教育活動の展開」をし「信頼される学校・特色ある学校づくりの推進」の実践に努めてきました。

II 目指す学校像

労を惜しまず愛情をもって教育にあたる本校教職員、心意気あふれる生徒とともに築上げてきた学校経営は、まず本校の3つの教育目標の達成を図るため「目指す学校像」の作成から始まりました。それが「高め合い 磨き合い 感動し合い 『愛』 いっぱいの学校」で、合言葉は「感動」としました。



生徒の教育環境を踏まえた上で「夢と希望にあふれた15の春を保証する学校」にしようと考えました。確かな学力とは「学ぶ喜びと生きる力を育むことで、生涯学習の視点に立った力を身に付けさせる学校」でありたいと実践し、生徒と教職員の人間関係を大切にして、生徒とともに感動できる学校行事や部活動、教育諸活動になったと思います。



また、教職員と生徒の温かな関係性や、生徒の活躍、そのために頑張る教職員の様子を発信し、地域や保護者の方々へのご理解・ご支援を図ってきました。



Ⅲ 目指す生徒像

本校校歌の歌い出しにある「心意気」が生徒たちの合言葉で、「高め合い 励まし合い たくましく生きる生徒」を目指す生徒像として掲げ

て、主体的に行動し、自分の未来を切り拓いていける生徒の育成に努めてきました。

現代は、生涯にわたって学び続け、未来を創造していかなければならない。大きな夢をもち、自分の未来を切り拓いていく。しかし、そのためには、失うと二度と戻らない命、親から授かったかけがえのない命を大切にするよう具体例を示しながら、繰り返し言い続けてきました。



そのことが、自分のみならず周囲の人たちを大切にしたり、郷土を愛することに繋がると考えました。生徒たちもその期待に十分応えてくれたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



Ⅳ 目指す教師像

教師が変われば学校が変わります。

熱意・誠意・創意を大切にして、機動力のある組織・教職員集団「チーム東」の構築に取り組むため「高め合い 生徒と向き合い 『生涯の師』たりうる教師」を目指す教師像として掲げ、教職員はもちろん、保護者にも事あるごとに発信をしてまいりました。

教師力の向上が学校変革の大きな手段であり、高い識見があり魅力があり教育的愛情をもった教師が求められます。生徒が卒業してからも、中学校教師は「先生、先生」と呼ばれ慕われ、その豊かな人間性から人生に影響すら与え、活躍の報告のため恩師に会いに来たときは、「教師冥利に尽きる」思いです。常に生徒と共にある教師は、卒業後も応援し続けることができると考えていますが、本校の先生方は真に「生涯の師」たりうる教師ばかりでした。

